



令和4年2月18日

各位

会社名 株式会社ピーエイ
代表者 代表取締役社長兼COO 垣内 康晴
(コード番号 4766 東証第二部)
問合せ先 経営企画部長 阿部 良一
(TEL 03-6880-5050)

**連結業績の前期実績値との差異及び
営業外収益の計上並びに特別損失(減損損失)の計上に関するお知らせ**

当社は、令和3年12月期決算におきまして、下記のとおり営業外収益及び特別損失(減損損失)を計上することになりました。

また、本日付「令和3年12月期決算短信[日本基準](連結)」で公表した令和3年12月期(令和3年1月1日～令和3年12月31日)の連結業績につきまして、前期実績値(令和2年12月期(令和2年1月～令和2年12月31日))との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。なお、当社は当該期間に係る業績予想を公表していないため、増減につきましては実績値との比較になっております。

記

1. 令和3年12月期通期連結業績の前期実績との差異

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前期実績値(A) (令和2年12月期)	1,600	△205	△86	△103	△9.65
当期実績値(B) (令和3年12月期)	1,582	△60	△24	△280	△26.09
増減額(B-A)	△18	145	62	△177	
増減率(%)	△1.1	—	—	—	

2. 差異の理由

売上高は、情報サービス事業において新型コロナウイルス感染拡大に伴う顧客の採用活動中断及び延期等で下回る一方で、人材派遣事業は、生産性を高めつつ既存顧客を中心に深耕等し前期実績値を上回る結果となりました。

また、保育事業は令和2年4月にココカラ高津(認可保育所)を事業譲渡したことにより下回り、地域創生事業は、西小山施設のテナント数が増加したことにより前期実績値を上回る結果となりました。

その他事業では、ベトナム関連事業で前期実績値を上回る結果となりました。

営業利益は、人件費及び本社移転等の経費削減等の販管費圧縮などにより前期実績値を上回る結果となりました。

経常利益は、営業時間短縮に係る感染拡大防止協力金等の助成金収入等により、前期実績値を上回る

結果となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、特別損失（減損損失）の計上により前期実績値を下回る結果となりました。

3. 営業外収益の計上について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、営業時間短縮に係る感染拡大防止協力金等の助成金収入等22百万円を営業外収益として計上致しました。

4. 特別損失（減損損失）の計上について

(1) 当社の地域創生事業で所有する固定資産（遊休資産のコンテナ）を今後の業務見通し等を勘案し事業価値の再評価を行った結果、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づいて減損処理を行い、33百万円を特別損失（減損損失）として計上することといたしました。

(2) 当社の地域創生事業で所有する京都駅前崇仁地区の固定資産（駐車場及び営業店舗等）について、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、駐車場の利用低下や営業店舗等への来店客数の減少や飲食の利用低下により収益性の低下がみられたため、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づいて駐車場及び店舗等の減損処理を行い、10百万円を特別損失（減損損失）として計上することといたしました。

(3) 当社、所有の固定資産（ソフトウェア及び本社移転時の造作等）について、事業の収益性が低下しているため、今後の業績見通し等を勘案し、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づいて当該固定資産について2百万円を特別損失（減損損失）として計上することといたしました。

5. 本件につきましては、本日公表しました「令和3年12月期決算短信[日本基準]（連結）」に反映しております。

以 上